

(第四号議案、別紙)

一般社団法人日本アルパイン・ガイド協会設立の件
設立の趣旨書

旧社団法人日本アルパイン・ガイド協会は、故奥山章、古川純一といった、日本を代表する登山家によって、国内では初めてのプロフェッショナルな山岳ガイドの団体として誕生している。

1971年4月、故橋本龍太郎衆議院議員（後の内閣総理大臣）を会長に所轄官庁を厚生省とした公益社団法人日本アルパイン・ガイド協会として設立し、同年7月環境庁（現、環境省）の設立と共に移管し環境庁を所轄官庁として活動してきた。設立当初は、国内の登山界に旋風を巻き起こしたものの、ガイドを受け入れる社会基盤のなかった日本では、欧州風のガイドの雇用や、ガイドの必要性、ガイドの職業意識といった面で多くの努力を強いられたのである。

今日、日本の登山文化の中でのガイドの役割やその職業意識といった面を考えるならば、当協会が果たしてきた役割は大きなものがあつたと自負しているところである。

設立以来、一貫して自然保護活動をはじめとして、正しい登山技術の普及や登山知識の指導、山岳遭難防止活動、山岳レスキュー技術の普及といった公益性のある活動を最大の責務と考え実践してきている。しかしながら国内団体としての法人格については、他団体との合併や離反といった流れのなかで社団法人格から任意団体にと、その目的や社会貢献とは関係なく翻弄されてきたのが実情である。

任意団体としての制約は大きく、再度社団法人格を取得して、当協会の目的を公なものとして掲げ、事業拡大に務めて行かなくてはならないと考える。

公的機関や海外機関とのよりよい連携は、この社団法人格をもった団体、つまり一般社団法人日本アルパイン・ガイド協会の役割と考える次第です。皆様のご理解と、ご支援を御願い申し上げます。

平成21年5月13日
一般社団法人日本アルパイン・ガイド協会
設立発起人代表 森 鐵彌